

共生力

HP: <http://www3.ocn.ne.jp/~koryu/>

Tel : 055-269-6533 Fax: 055-269-6534

〒400-0031 山梨県甲府市丸の内2-32-16

甲府丸の内マンション 302

発行人：黒田文男

「新プロジェクト」の開始へ 山東省泰安市東平県を視察

3月22日～24日に、協会代表（黒田文男代表理事・赤岡業務執行理事・芹沢秀行理事）は、中国宋慶齡基金との「新たな教育交流プロジェクト」の開始に向けて、中国を訪問しました。

23日には、基金会の劉穎さん・袁振雅さんと共に山東省泰安市東平県への視察を行いました。東平県までは、北京市（北京南駅）から高速鉄道で1時間30分（濟南西駅）、さらにバスで1時間30分程の道のりでした。濟南西駅では、東平県教育局の劉立新局長・史桂玲主任・王志強主任に出迎えていただきました。



（東平県景色）

美しい自然や豊かな文化に恵まれている東平県には東平湖、水滸伝映画・テレビ城、萬里故居、羅貫中記念館などの有名な観光スポットもあります。黄河の北に広がる大地には、小麦畑が広がり、梅や桃・林檎畑も見られました。しかし、経済発展から見ると、東平県は大分遅れていて、山東省における経済が遅れている30県の一つになっています。東平県は、町11・共同体3・村716で構成されていて、総面積は1343平方km、総人口は79万人だそうです。学校数は、小学校134校、中学校20校、高等学校3校、私立高校1校、専門学校・教

員研修センター・特別支援学校がそれぞれ1校で、小学生37620人、中学生20770人、高校生7923人で、教職員数は6674人（教員5664人）だそうです。2012年に「東平県教育振興計画」が発布され、今後三年間の教育振興の全体構想・目標・重点任務等が明確にされ、3.68億元を投資し、指導・体制・教育投資等の全面的で強力な教育改革を推進していく予定だそうです。



（裴洼小学校の様子）

最初に訪れたのは、大洋鎮裴洼小学校でした。大洋鎮は東平県の北に位置し、経済発展の遅れから、学校建設等も隣接県より一段と厳しいそうです。校門の所で、裴召文校長先生をはじめ沢山の関係者が出迎えてくれました。裴洼小学校には幼稚園を入れて八つのクラスがあり、小学生は261人で、教職員は20名でした。子どもたちは明るい笑顔で挨拶してくれ、真剣な表情で学習に取り組んでいました。学校の教育環境を整えようと努力しているようですが、課題が沢山あるとのことでした。

次に接山鎮夏謝小学校を訪れました。接山鎮は都市部から離れた山岳地帯に位置していて、経済基盤が弱く、財政収入も県内で最下位で、学校のインフラ建設は非常に遅れているそうです。夏謝小学校は、接山鎮の北に位置し、350人の小学生と18人の教職員がいました。資金難に直面していると言うことで、1970年に建てられた校舎は安全上の問題も懸念されていました。

黒田代表理事と井頓泉副主席との意見交換で 今後のプロジェクトの進め方を確認

協会代表の三人は、24日に中国宋慶齡基金会を訪問し、井頓泉副主席と今後の協力体制について確認しました。

会談では唐九紅基金部長、王プロジェクト処長・劉副所長と今後の活動について率直な意見交換を行いました。

井 東平の視察お疲れ様でした。貴協会の素晴らしい取り組みについて、心から感謝しています。お互いの信頼関係を大切にし、行動で人のつながりを作っていきましょう。

黒田 今後の取り組みについて、まず、易県での教育交流は、一定の成果が確認できたので、ここで打ち切りにしたいです。そして、東平における教育交流を新たに始めたいと思います。今年の9月に当協会

の中心的なメンバー15人ほどで、東平を訪れたいです。そして、来年は東平の先生方に日本来てほしいと考えています。

井 わかりました。中日友好70年の歴史に相応しい、両国のためになる訪問団になって欲しいと思います。責任を持って受け入れ喜んで大歓迎します。来年の訪日団もしっかり取り組み、大いに成果を上げるようにしましょう。東平は私の故郷です。孔子様、水滸伝、萬里等沢山の有名な人物がでています。中国には発展による格差が出ています。それは西に行くほど酷いです。中国は日本から教育のシステム・精神・子どもの育て方等謙虚に学ばなければいけないと考えています。

黒田・井 協会と基金会のこの交流を大切にしていくことを確認しましょう。 (文責:赤岡)



(井副主席・黒田代表の会談)

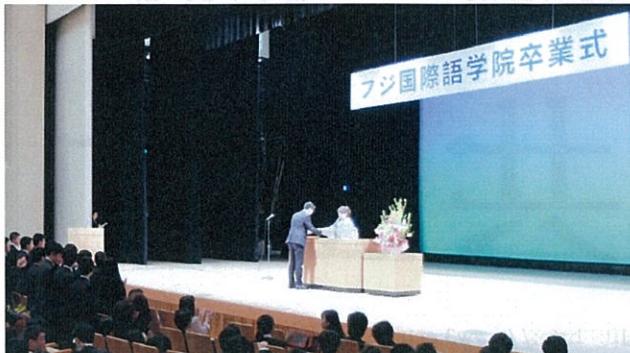
日本語作文コンテスト最優秀賞・教育賞の姚儼瑾さんが輿石参議院副議長(協会顧問)を表敬訪問!

2014年度第10回日本語作文コンクール(日本僑報社主催、外務省・在中国日本大使館後援、朝日新聞社など協賛)には、中国全土の省市区の196校から4133編の応募がありました。最優秀賞・日本大使賞(日本一週間招待)・教育賞(協会賞)は、姚儼瑾さん(東華大学)の「ACGと日中関係」が受賞しました。姚儼瑾さんは2月上旬に来日し忙しい日程をこなしましたが、そうした中2月4日(水)当協会の顧問で参議院副議長の輿石 東参議院議員を表敬訪問しました。国会見学・議員食堂での昼食等の輿石副議長の心遣いに大感激の様子でした。



(輿石参議院副議長と姚儼瑾の記念写真)

フジ国際語学院卒業式 ホームステイ参加の学生達も



(卒業式記念写真)

3月5日、フジ国際語学院(山中小白代表・財団評議員)の卒業式に出席し、日本留学生の卒業を祝いました。担任による卒業生の呼名、返答と起立、花束・呼びかけ等の先生への感謝の表現、代表者による証書の授与と先生方と学生とが喜びの中でひとつになる卒業証書授与式は、厳かで凜々しくそして温かく、まことに感動的でした。学生たちの主体的な取り組みによるパフォーマンスは、温かく素直で、まことに感動的なものでした。先生方への感謝を見事なで演出すると共に、日中友好の架け橋になるという決意が感じられ、感動的なものでした。また一昨年・昨年、教育交流ホームステイ in 山梨に参加した学生たちもそれぞれ優秀な成績で希望校に進学しました。ホームステイで得た貴重な体験を今後の生活・人生の中で生かしていってくれると思います。

式では中国大使館一等書記官(教育)譚 永東氏、元重慶総領事瀬野清水氏が挨拶を行ないました。協会からは赤岡業務執行理事が出席しました。

財団事務所が甲府に移りました

昨年の10月より財団の事務所が、山梨県甲府市に移りました。設立以来、東京都千代田区に置かれていた財団の事務所が、新たな事務局体制で運営するために、山梨県甲府市丸の内に移されました。事務局は、業務執行理事(赤岡)と事務職員(石川)の二人となりました。住所等は、「共生力」の表題にあります。今後ともよろしくお願ひ致します。



(甲府の協会事務所の様子)